

## 2050年の地球は

理事長 新倉 茂

これから生まれる子供達、今日生まれた子が43歳になる2050年になった時、この地球で生きていけるだろうか。

1950年までの過去60年以上CO<sub>2</sub>濃度は300PPMを超えたことが無い。

現在は380PPMである。

地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>排出を削減しなければ近い将来、想像出来ない様な災害に見舞われるであろう。

想像できない様な災害とはハリケーンカトリーナは最大風速91メートル、コスタリカでは風速120メートルを記録した。このまま温暖化が進めば風速200メートルになる可能性もあると言う。カトリーナクラスの波では8メートルは優に超える。ヨーロッパの熱波は3万人を超す死者を出している日本だけ被害が少ないと言うことは無い。

現に台風や突風で屋根が飛び、家を壊している。

初島の海拔8メートルの道路には海水が上がっている。風力計は72メートルで切れている。台風はますます大型化、集中豪雨になると言うのは10年からの言われていて日本の雨量は5%増えると言われていたがこの頃学者や研究機関では10%増えると言っている。

今後は北極、南極の氷河は減り、海中、海床に森林は酸性雨で枯れ熱波による山火事南極の棚氷の下の海水温は上昇棚氷はかかって無い大きさの物が崩落、海水濃度は薄くなりオキアミの移動が始り魚、動物の移動も始り近隣の猟師は大変困っていると言う。

北極の海水温の上昇は氷を溶かしペンギン、オットセイの孵化は1週間ほど早め白くまの餌が減って体重は約15%減ってきた。2020年～2030年には夏の間氷は無くなるであろう、白熊も一緒に北極から消えるだろう。海床では10年位前からメタンハイドレードの暴噴があった。

南極、北極の海水温は1℃から6℃の間上昇している。

他に海水温の上昇はエルニーニョを引き起こし31℃を超えるとサンゴの白化現象、ペルー沖からカタクチイワシが移動、海の魚や藻に多くの被害が及ぶ。

海水中のCO<sub>2</sub>濃度の上昇は海水の酸性化、貝類の殻が薄くなる。台風は大型化して山火事も多くなる。被害をすべて書く事は先送りする。

災害はCO<sub>2</sub>増加とエネルギーの使用料増加と共に大型化する。

永久凍土の溶解は寝ていたメタンを起こした。

CO<sub>2</sub>の部の温暖化寄与する

森林の破壊。科学物質による海水汚染、人為的な物と合わせ手の汚染は大気中、土壤に現れ被害を伴っている。

2050年になっても日本や地球に住み生きていけるような社会、都市、農村、山河を残さなければならない。

今の大人達は産業革命前の農業国家に戻す責任と義務がある。

1900年～2000年の間に地球の気温は0.6度上昇した。

2000年～2006年のわずかな間に0.2度上昇している。この状態を止めるには2050年までには地球全体の温度を2℃、CO<sub>2</sub>は475PPMの上昇で抑えなければならない。現在のCO<sub>2</sub>濃度は380PPMである気温の上昇を抑えるには地球全体で50%日本は60%～85%、アメリカは95%、エネルギーの削減をしなければならない。

EU では 2050 年体制を始めている。イギリスは京都議定書の期限である 2012 年までの削減の倍の 25%削減を可能にしている。そればかりか既に 2050 年体制に入っている。アメリカ型自由主義を貫くと世界は破壊を招く。日本も本気で取り組まなければ世界の EU の進歩的な仲間入りは無理であろう。

世界はグローバルなそれぞれの国に合った規制を作り持続可能な社会を作らなければ地球の未来はないのではないだろうか。現在は持続不可能な社会である。

有限な自然の一部である人間、南北格差と人口問題の解決。地球市民が市民の都市を作らなければならない。

もし世界が現状維持で行くような事になれば飢餓問題が起こり環境や生物多様性の破壊はますます進みテロは激化、地域紛争が始まり、やがて人類は滅亡するであろう。このような事は予言で終わり、現実にならないようにしなければならない。人心の不安は心をなくし物欲へと移っている。

これからの地球国家は官僚、政治家、体制側の専門家に任せるのではなく、地球市民が草の根の力を合わせ組織し、今までの大量生産、大量消費、大量廃棄の経済様式をやめ経済成長至上主義でない未来を作るのである。力を合わせ政治、企業を動かす世界的な脱国境ネットワークの草の根市民の手で始めよう。

2050 年に向かって都市作りのあり方は、ローマクラブで昔研究発表したように市民は 15 キロ県内で暮らし旅は一生に一度だけとする。また現在の研究グループの発表では一つの都市にインフラを整備し公共交通で移動し車社会を終わらせ農業を主力産業にして低炭素社会を作るようにすれば良いと言っている。

残された時間はあまりない。